

地域・社会との共生

オカムラグループは、地域の方々とともに発展していくため、それぞれの地域の社会活動・環境活動などへの参加を通じて交流や社会貢献に努めるとともに、事業活動の中で蓄積してきた知見と経験を生かし、人財の育成や、社会課題の解決に向けた情報発信・場の提供などを通じて、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

オカムラグループ社会貢献活動方針

オカムラグループでは、創業から引き継がれてきた基本方針の考え方にに基づき、広く社会課題の解決に資する取り組みの推進に向け、2021年5月に、「オカムラグループ社会貢献活動方針」を制定しました。本方針では、対話・交流を通じた社会との共生、事業で蓄積した知見・経験の活用、従業員の活動支援などの取り組み姿勢を明記しています。

 **社会貢献活動方針**
https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/policy/social_contribution_activities_policy.pdf

社会貢献活動の運用ルール策定

地域や社会のニーズを踏まえ、より有意義な社会貢献活動を推進していくために、2022年3月に社会貢献活動の運用ルールを策定しました。社会性・公益性が高く、社会から広く理解が得られる活動であることや、社会への好影響、長期的視点での事業活動との関係等を客観的に評価して取り組むことなどを定めています。

今後も本ルールに基づき、活動の充実に努めていきます。

ボランティア休暇

従業員のボランティア活動への参加を支援するため、ボランティア休暇制度を設けています。従業員が保有している傷病休暇（有給）のうち、年間5日を限度にボランティア休暇として利用することができます。イントラネットや社内報等で休暇の申請方法や利用者の声などを紹介し、利用促進を図っています。（データ集 [▶P.160](#)）

地域社会活動への参画

オカムラグループの各拠点では、イベントや清掃活動、地域の方々へのグラウンド貸し出し、災害時の支援などを通じて、地域社会活動へ積極的に参加・協力しています。

2022年度の主な地域社会活動

- 少年野球チーム等へのグラウンド貸し出し（山陽オカムラ）
- ヒルクライムチャレンジシリーズ2022 第10回 高梁吹屋ふるさと村大会 supported by ハレいろ・サイクリング OKAYAMAのメイン会場としてグラウンド提供（山陽オカムラ）
- 地域住民、子どもたちを対象とする工場見学（詳細 [▶P.131](#)）
- 地域の清掃活動（各生産事業所）
- 献血ボランティア（各生産事業所、オフィス拠点）



ヒルクライムチャレンジ大会当日の様子

スポーツ支援

オカムラグループは、地域スポーツチーム等へのグラウンドの貸し出し、プロスポーツチームなどのスポンサーシップ、スポーツイベントへの協賛などを通じてスポーツ支援活動を行っています。また2021年4月にはパラアスリート選手を従業員として採用し、競技活動を支援しています。

<スポーツチームのスポンサーシップの例>

- 横浜FC
- 釜石シーウェイブスRFC*

* 釜石シーウェイブスRFC：日本初の地域共生型クラブチームとして2001年4月25日に創設されたラグビーチーム。ジャパンラグビートップワンのディビジョン2に所属し活動。エヌエスオカムラの従業員がメンバーとして活躍



横浜FC



釜石シーウェイブスRFC

災害被災地支援

オカムラグループは国内で発生した大規模自然災害で被災された方々の支援、被災地の復興のために義援金および寄付金、物資による支援活動を行っています。またオカムラは、個人・NGO・経済界・政府が対等なパートナーシップのもとに紛争や災害時の緊急人道支援のために協働する特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）の賛助会員となっています。

TOPICS



ウクライナおよび周辺地域への人道支援に対し、紺綬褒章を受章

オカムラは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、ウクライナ国内およびその周辺地域で避難をする方々への人道支援のために、2022年3月に日本の公式支援窓口である特定非営利活動法人国連UNHCR協会を通じて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ5,000万円の義援金を寄付しました。その支援に対し、2022年10月に紺綬褒章を受章しました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付した功績が顕著な個人または法人・団体に対し、国が国家や公共に対する貢献を表彰する褒章制度の一つです。



左：株式会社オカムラ 常務執行役員 佐藤 喜一
右：特定非営利活動法人国連UNHCR協会 事務局長 川合 雅幸様

生産事業所における ステークホルダーとの コミュニケーション

オカムラグループの生産事業所では、地域の方々との交流を通じ、地域社会活動へ積極的に参加・協力しています。

工場見学会・懇談会の開催

オカムラグループの生産事業所では、企業の仕事を学ぶ子どもたちやお客さまを対象とする工場見学を実施しています。工場見学では、製品が作られる様子やさまざまな工夫、技術の継承による人材育成などを紹介しています。

追浜事業所が2013年度から継続して行っている「夏休みものづくり工場見学」では、イスに使う革の切れ端を使ったコインケースづくりや、1枚のスチール板からいくつもの工程を経てできるカードケースの製作体験を通して、ものづくりの楽しさを伝えています。定期的に実施している近隣の方々との懇談会・企業見学会では、製造工程や廃棄物施設を見ていただき、環境に対する取り組みを説明し、地域の方々の理解・安心につながるよう意見交換の場も設けています。

地域との災害時の連携

オカムラグループの生産事業所では、災害発生時に迅速な対応ができるよう、事業を行う地域での行政機関との連携協定締結や、地域での防災活動に参加しています。

富士事業所では富士山の恩恵を受けた豊富な伏流水を工業用水や生活用水として利用しています。2022年11月にこの地下水を、災害時の市民生活の安定と早期復興のための生活用水として提供する連携協定を御殿場市と締結しました。

災害に関連する主な協定

| 拠点 | 概要 |
|-------|---|
| 高島事業所 | 災害時協力についての合意書締結(沢口部落会) |
| 追浜事業所 | 横須賀市消防協力隊(横須賀市) |
| 富士事業所 | 御殿場市災害時支援協力協定締結(御殿場市) 御殿場市消防団協力事業所(御殿場市) |



御殿場市との災害時支援協力協定締結の様子
左：御殿場市長 勝又 正美様
右：オカムラ 執行役員 栗原 実良(当時)

TOPICS

ソフトボールを通じた地域との交流

近年、教員の働き方改革が進み、部活動の指導に関わる労働時間の対策が求められています。富士事業所の近隣にある御殿場市立富士岡中学校では、学校と地域とが連携した組織「チーム富士岡」を発足し、学校・保護者・地域の三者が連携して、子どもたちの健全な成長を支援しています。オカムラ ソフトボール部は、富士岡中学校女子ソフトボール部の臨時コーチとして「チーム富士岡」に参画し、基礎練習やバッティング練習、競技に臨む心構えなどについて指導しています。

ソフトボールでの交流に加え、2022年度は富士事業所でのフィールドワーク受け入れや、従業員が中学校に出向き職業講和を行いました。



ソフトボール指導の様子



職業講和の様子



インクルーシブな社会に向けた 取り組み

オカムラグループでは多様性を重視し、一人ひとりが自分らしく生きられる“インクルーシブな（排除しない）社会”の実現に向け、さまざまな取り組みを推進しています。

2022年度の主な活動

- 特別支援学校・養護学校を対象とするインターンシップ（富士事業所・高島事業所）
- 特別支援学校を対象とする工場見学（富士事業所）
- 障がい者福祉施設お菓子販売（各事業所）
- パラ卓球トップアスリートの雇用・競技活動支援

インクルーシブ・スポーツ支援

特定非営利活動法人アクティブスポーツは、「共生社会の実現をスポーツの力で!!」をモットーに日々、障がい者を対象としたインクルーシブサッカースクール、知的障がい者サッカーチームを運営し、インクルーシブサッカースクールや大会の実施により障がい者と健常者がともに未来に向かう絆を作る機会の創出により両者の価値観の共有を作り上げることを目指しています。オカムラは、アクティブスポーツのサポートシップパートナーとして支援を行っています。

TOPICS

笑顔を生む福祉事業所との交流-「おやつ de 社会貢献」

オカムラグループでは、障がいのある人が社会と関わり就労訓練の場となる、交流の機会を創出しています。この活動は、オカムラグループの従業員が障がい者を理解する学びにもつながっています。

生産事業所で始まった、福祉事業所の方が製造したお菓子を購入することで自立支援につながる「おやつ de 社会貢献」を、オカムラの販売部門が入居しているJR横浜タワーでも実施しています。お菓子を製造した福祉事業所の皆さんに横浜のオフィスに来ていただき、ラッピング作業を一緒に行い、そのお菓子を直接販売していただいています。回を重ねて実施をしていく中で、顔見知りになり、にぎやかに会話をしながら楽しい触れ合いの時間を持っています。今後もこうした交流を継続していきます。

コメント：オフィス環境事業本部 業務統括部 横浜業務センター 所長
長谷川 智美（集合写真上段左端）

営業やスタッフなど複数部門が同居しているJR横浜タワーで、多くの従業員が協力し拠点ならではの交流ができました。より社会貢献活動を身近に感じられるよう、これからも定期的な交流を続けていきたいです。



ラッピング作業を終えて



ラッピングしたお菓子を並べて販売

文化・芸術活動の支援

オカムラグループでは、音楽・美術・舞台芸術等への協賛を行うなど、文化・芸術活動を支援しています。

(データ集 ▶ P.160)

次世代の育成を支援

オカムラグループでは、ものづくりや環境への取り組みなど企業として蓄積してきた経験を生かしながら、次代を担う若者の教育に取り組んでいます。

JEES・オカムラ次世代育成奨学金

オカムラは、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）の冠奨学金事業に寄付を行い、この寄付金を原資として、デザイン分野の人材育成支援を目的とした返済義務のない給付型奨学金「JEES・オカムラ次世代育成奨学金」が2021年に設立されました。

給付が開始された2022年度は12名の学生を奨学生として迎え、9月には奨学生交流会を開催。ショールーム見学や奨学生の学習内容発表等を通じて、交流を深めました。2022年度に奨学生4名が卒業し、2023年度も新たに奨学生4名を迎えています。

今後もデザイン分野を学ぶ日本国内の大学生に対して、在学中および卒業後の経済的な不安を緩和し、学業に専念できる環境を整え、将来デザイン分野で活躍できる有望な人材の育成を支援していきます。



奨学生交流会 ショールーム見学の様子

実務経験を生かし大学講師として人財育成に貢献

オカムラの従業員がデザインや研究などの業務を通じて得た知見を生かし、大学で非常勤講師を継続的に務めています。学校法人関東学院大学や学校法人日本大学で半期を通して、エルゴノミクス（人間工学）やプロダクトデザインなどの実務者として、実践的な事例や新しい技術を紹介しながら講義を行っています。

このほか、大学の特別講師としてスペースデザインやプロダクトデザインの講義・演習や講演を行うなど、次世代の育成に貢献しています。

VOICE



オフィス環境事業本部
ワークデザイン研究所
リサーチセンター 所長
花田 愛

「学び」の時期に「はたらく」ことを 対話を通し考え自律的な学びにつなげる

オカムラは、国立大学法人大阪大学とともに、教育における産学共創プロジェクトの一つとして、2019年度よりアクティブ・ラーニング型の「オン・キャンパス・インターンシップ」を開講しています。2023年度で5年目となり、大きく変わる社会情勢の中で、先生方と試行錯誤をしながら続けてきました。講義は、大阪大学大学院国際公共政策研究科 ESG インテグレーション研究教育センター（ESG-IREC）として、持続可能な未来の形成に向けて、理論と実践の両面から研究・教育・社会連携を推進する活動の一環として行っています。

講義は、「学び」の時期にいる学生が、「はたらく」について考える機会を持ち大学での学びを自律的なものにし、未来志向や課題解決力を身につけてもらうことを目的としています。学生同士、教員と企業人との異なる立場での対話を通して、新しい視点を得ること、見方を変えた思考ができることがオン・キャンパス・インターンシップの魅力です。積極的に参加・発言してくれる学生が多く、毎年私自身もたくさんの刺激を受けています。



TOPICS

中高生向け探究学習プログラム 「クエストエデュケーション」への参画



オカムラは、2022年4月から中高生向け探究学習プログラム「クエストエデュケーション」に参画しています。

「クエストエデュケーション」は、株式会社教育と探求社が2005年にスタートした、現実社会と連動しながら「生きる力」を育む探究学習プログラムです。その中でオカムラが参画した企業探究コース「コーポレートアクセス」は、企業へのインターンシップを教室で体験し、企業とともに未来をつくるプログラムです。参加する中高生たちは自ら選んだ企業についての理解を深め、その企業から提示されるミッション（課題）にチームで取り組み、オリジナルの企画を生み出します。オカムラは「ミッション提供」「教材づくり」「学校訪問」などを行っています。2022年度はミッションとして「多様な人の“人間の本気”を引き出す空間革命を提案せよ!」を提示し、中高生たちはグループで調査や議論をしながら、自由な発想で探究活動に取り組みました。オカムラの従業員は、学校訪問での問いかけや対話、オンラインシステムでのやりとりを通して、中高生たちの探究活動の伴走者となっています。

オカムラは、企業として蓄積してきた経験を生かしながら中高生の主体的な学びに関わり、次世代の育成に貢献しています。



コーポレートアクセス教材



学校訪問の様子